

## ・環境省からのおしらせ・

### ラジオCMで「輸送インフォメーション」をお知らせしています

福島の復興に向け、環境省は、除去土壤等の仮置場の早期解消に安全第一で取り組んでいます。番組では、毎日延べ2,800台(2020年7月現在)のトラックによる輸送の安全対策や混雑緩和への取り組みをお伝えしています。

(AMラジオ) rfcラジオ福島「交通情報」内…………… 毎週 月・水・木曜日 午前10時9分～

(FMラジオ) ふくしまFM「トラフィックインフォメーション」内… 毎週 火・金 曜日 午前 9時8分～ ※約60秒間

### 「福島の高校生たちが作る、環境に優しい桃スイーツ」オンエアレポート！

TOKYO FMのラジオ番組「Hand in Hand」で、福島県の高校生たちが手掛ける桃のスイーツプロジェクトについて二週に渡って放送されました。

このプロジェクトは、全国有数の桃の産地である伊達市で、食品ロスを少なくするという観点から、捨てられることもあった桃の規格外品を用いて、福島県の高校生たちがお菓子づくりとパッケージのデザインにチャレンジした取り組みです。

番組では、プロジェクトの一員である高校生や指導した先生の思い、伊達市、県内高校生そして環境省が進める取り組みをパーソナリティの高橋万里恵さんが紹介しました。また、翌週には、大臣就任前から福島の復興を支え続けている小泉環境大臣が「環境省は常に福島と共にいる」と福島への思いを語りました。

詳しくは、番組ホームページのオンエアレポートをご覧ください。

●第一週目のテーマ『福島の高校生たちが作る、環境に優しい桃スイーツ』  
<https://www.tfm.co.jp/hand/index.php?catid=3728&itemid=165010>

●第二週目のテーマ『小泉進次郎環境大臣が語る、福島への思い』  
<https://www.tfm.co.jp/hand/index.php?catid=3728&itemid=165299>

環境省では、福島の復興・環境再生事業に取り組む中で、風評対策の観点もふまえ、環境再生が進んでいる福島の姿や福島の魅力、また地元でがんばっていらっしゃるみなさんの活動を支援し、広く全国に発信するお手伝いをしています。

### 環境省の情報発信拠点

#### ●中間貯蔵工事情報センター



■所在地 福島県双葉郡大熊町  
大字小入野字向畑 256  
■開館時間 10：00～16：00  
■休館日 日曜日・月曜日、年末年始  
(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
■電話番号 0240-25-8377  
中間貯蔵施設工事について紹介しています。  
毎月バスによる中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

#### ●特定廃棄物埋立情報館 リップルンふくしま



■所在地 福島県双葉郡富岡町  
大字上郡山字太田 526-7  
■開館時間 9：00～17：00  
■休館日 月曜日、年末年始  
(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
■電話番号 0240-23-7781  
特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

#### ●環境再生プラザ



■所在地 福島県福島市栄町  
1-31 1階  
■開館時間 10：00～17：00  
■休館日 月曜日、年末年始  
(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
■電話番号 024-529-5668  
福島の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

## ふるさとを次の世代へ伝える取り組み

2020.7月

# ふくしま環境再生

Vol.12



聞き書き活動で訪問した石田さんが所有する母屋、土蔵、納戸は、江戸時代末期から昭和初期にかけて建てられたもので、この地域の上層農家の暮らしを伝えるものとして大熊町では初となる国の登録有形文化財に登録されています。

「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

# 環境省では、大熊町の「聞き書き」活動を支援しています。

大熊町の風土・文化・歴史・暮らしを、世代を超えて共有・継承していくため、県外の大学生が中心となって町民のみなさんからお話を伺い、記録に残す活動を行っています。

「聞き書き」とは…  
その土地の方々のお話を伺い、記録に残し、世代を超えて共有・継承していく取り組みです。

## ●これまでの活動について



ご協力いただいたみなさん



聞き書きの様子

2019年秋よりNPO法人蓮笑庵暮らしお学校が事務局を担い、慶應義塾大学公認学生団体S.A.L.のあじさいプロジェクトの学生さんが、町民のみなさんから複数回にわたりて聞き取りを行いました。

これまでお話を伺った方は、大熊町の特産品である梨の栽培や地元熊川で鮭漁を行っていた方、自家製の

「しいたけ味噌」をつくっていた方、地域の気候特性を活かしてほうれん草やきゅうりを生産していた方、牛の畜産、ふるさとの伝承に取り組んでいた方など全部で14名になります。

※本活動は、公益社団法人福島相双復興推進機構(福島相双復興官民合同チーム)の令和元年度「地域経済産業活性化対策費補助金(被災12市町村における地域のつながり支援事業)」を活用しています。

## ●今後の取り組みに向けて



伝承の取り組みを紹介する鎌田清衛さん(左)と渡部千恵子さん(右)



大学生による中間報告

2020年2月7日(金)大熊町役場おおくまホールにて、参加した学生による「聞き書き活動」中間報告会が行われました。ふるさとの伝承に取り組まれている町民の方から、これまでの民話伝承や史跡調査などの活動についてご紹介いただき、町の歴史を振り返りながら、過去に町民の方々が培った知恵や技術を次の世代に残していくことがいかに重要なことなのかを伺いました。

また、報告会を聞きに来た町民のみなさんは、「公営住宅で、学生さんたちと交流を深めたい」「若い世代とも連携して活動を広げてほしい」など、取り組みへのアドバイスをいただきました。これらをふまえながら、活動をさらに充実させ、町民のみなさんに広く共有し後世に継承していくことを目指していきます。



私たちがお話を伺いました！



伊藤翔平さん



横山瑞人さん



塚原千智さん



岩田千怜さん

### ～松永秀篤さん 妙子さんご夫妻～ (震災前自宅:大熊町熊川地区 ※現中間貯蔵施設内)

#### ●子育てと一緒に

【秀篤さん】

震災前は大家族でした。避難した後も(大熊を)出たことがないからやっぱり戻りたいと。(大川原に)新しく土地を取得して、新築できたのは第一号かもしれない。(もともとは、きゅうりの)施設園芸やってたけれどね。

【妙子さん】

きゅうりって最初から種をまいて接ぐんです。きゅうりだけではすぐ病気になっちゃうので、カボチャの根っこで育てるんですよ。種を両方まいて接いでくんます。2,000本くらい作っていくんです。種まきから自分で育てるじゃないですか、一番花が咲いたときがすごくうれしいですね。「あ、これは実になる」と。そのうち子供たちが段々と大きくなってきたら、お父さんの方が袋詰めが下手で、子供に「お父さんは袋詰めするな(笑)」と言われて、子供の方が上手になりましたね。



震災前、きゅうりを中心とした園芸・農業を営んでいた松永秀篤さん(左)と奥様の妙子さん(右)

#### ●スマール農業で頑張りたい

【妙子さん】

今度、パイプハウスで自家消費野菜、きゅうりやろうかなと。この年になって70近くになると、でかくやりたいという気持ちがね。自分たちでやれる小さめでやってきたいなど。

【秀篤さん】

この歳になると、大きめでなくてもいいから。

【妙子さん】

小さく、やりたいなと思いますね。スマール農業で頑張ろうね。

### ～石田キミ子さん～

(震災前自宅:大熊町大川原地区)

#### ●町の特産品「しいたけ味噌」づくり

私は大川原西原に7人家族で住んでいました。夫と私で椎茸を作っていました。始めたころ、30年くらい前は椎茸1万本ぐらいからやってた椎茸農家だったんです。

ほかに米と豆を自宅で作っていたんで、(自家製の味噌に)椎茸を入れるとおいしくなるんじゃないかと思って「しいたけ味噌」づくりを始めたんです。販売するまでに5年はかかったかなあ。椎茸を入れすぎたり、出汁が出なかったり、塩の加減とか…。

その後、町で「しいたけ味噌」を特産品にしていただいたんです。そうしたら味がよかったです。関東地方からの注文が一番多かったですね。東京には、5、6回(自分で)販売にも行ったんです。それからいっぱい注文が来て、1年に5トンの味噌を作り販売するまでになりました。



震災前、味噌を中心とした特産品製造・販売を営んでいた石田キミ子さん

#### ●家が、国指定の有形文化財に

母屋と土蔵と門と、あとここに糀(もみ)蔵があるけれど、釘を一本も使っていない建物で、それは町に寄贈しました。すごい材料を使っているんですよ。壊して、ただ更地にした方がいいと言う人もいたけれど、町で何とかしてくれるなら、寄贈したいなと言ったら、文化財に関わっている人が来て、「これは残しておいてください」と言われたから、壊されるよりはいいかなと、「ああ、良かった」と思いました。